

# さくらの里

## 高玉芝居の引き幕 45年ぶりに新調



この度、丸吉コンクリート工業(株)と高玉芝居後援会が「高栄会」へ引き幕を寄贈し、2月2日にコミセンで関係者に披露されました。新しい引き幕は縦3・2m、横8mあり、併せて袖幕も新調されました。デザインは長井市の金田京染店が担当し、瑞龍院の祈禱殿の竜や龍門ヶ滝、残雪の葉山、それにさくらの花吹雪が描かれています。歌舞伎座の緞帳も手掛けた京都の老舗織物会社が、カツラギという光沢のある生地で作りました。新型コロナウイルスの影響で例年行われていたコミセンでの定期公演が昨年中止となるなど、公演ができない状況が続いています。地区の方々へ早くお披露目ができますように一日も早いコロナの収束を願いたいものです。

# 令和2年度 各専門部から活動報告と今後について

## 地域すこやか部

部会長 本木善博



マスク不足に対応するため講習会を開催。今できることを模索しながら活動しました。

昨年は、コロナウイルスの感染拡大により、地域すこやか部の活動が自粛によりほとんど出来ない状況でした。8月にマスクケースとマスク作りの講習会を開催しました。10名の参加でしたが、2時間程度で手軽に出来てみなさんに喜んでいただきました。  
来年度は、元気にこにこウオーキング(2回)を計画。春は、上ノ台、瑞龍院方面、秋は、最上川河川沿いを歩き、四季の郷駅からフラワー長井線に乗って蚕桑駅まで戻って来る案を話し合いました。また、勉強会ではECOバッグ作り教室を考えています。  
コロナ禍でも、出来ることを、丑のように確実に一步一步前向きに進みたいと思います。

## 地域振興部

部会長 今野友博



有害鳥獣対策研修会では大瀬地区のイノシシ被害状況を確認。早急な対策が望まれます。

「地域資源を活かした地域づくり」を目標として活動してまいりました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定したほぼ全ての事業を中止しなければならぬ状況となりました。その中で、近年多発している「有害鳥獣による被害状況」の現地確認を部会員対象で行いました。コロナ禍ということもあり、規模を縮小しての活動となりましたが、地区内で情報の共有を図ることで、身近なこととして感じていただき、少しでも被害を減らしていきたい。今後も活動してまいりたいと考えております。

## 今、伝えたいことば ⑦

たとえ、凍り付いた難しい問題も  
真心という陽の光を浴び続ければ  
やがてとけて心の和む春が  
到来するであります。



雲巖寺 臥月庵 真心六相 より抜粋

## これからの予定

- 3月26日(金)桜の里づくり推進委員会  
役員会
- 4月3日(土)さくらの保育園入園式
- 4月7日(水)蚕桑小学校入学式



青パト車での見守り活動  
ご協力ありがとうございました

今年度の青パト車の見守り活動に延べ46名(19回実施)と大勢の方々にご協力いただきました。春に緊急事態宣言が発令され学校が長期間休校になり、青パト出発式も中止となりました。隔週(第一、三)木曜日の実施でしたが、防犯連絡員をはじめ民生児童委員、更生保護女性会、一般の方にご協力いただき、ありがとうございます。  
コロナが長引く状況の中にあっても、たくさんの方々のご協力により、地域の子どもの見守り活動を継続できていることに心から感謝いたします。子ども達の安全を守る活動にこれからもご協力をよろしく願います。



# 令和2年度 各専門部から活動報告と今後について

## 生涯学習部

部会長

金田 純一



感染対策をしながら文化祭を開催。皆様のご協力により新しい形で事業が実施できました。

コロナ禍で始まった令和二年度の活動でしたが残念ながらほとんどの活動が中止を余儀なくされました。そんな中で、文化祭だけは何とか開催できた事は本当に良かったと思います。皆さんの素晴らしい作品の数々を見てその思いを強くしました。味じまんも中止になり地域の皆さんに見に来ていただけらうかと心配しましたが、予想以上の方々に会場いただき成功の下に終わり本当に良かったと思います。開催にご協力いただきました皆様には心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

新年度の取り組みですが、今年度中止になった活動を中心にコロナ等その時の状況に合わせて活動していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 地域安全部

部会長

加藤 晃一



防災研修会では災害図上訓練を行い、地域の課題を確認。災害時の対策を話し合いました。

令和二年度は新型コロナウイルス感染症のため、地域安全部の活動は制限せざるを得ませんでした。それでも青パトによる広報活動、蚕桑地区防災研修会の開催に加え、計画にはなかった役場防災管財係長による講話を行うことができました。

令和三年度は今年度の計画を踏襲しつつ、蚕桑地区の実情に合わせ、安全安心な地域づくりに必要な施策を考えていきたいと思っております。

現代は「災害はいつでも何処にでもやってくる」と言われており、待つてはくれません。常日頃の備えと訓練、さらに「自分の命は自分で守る」「お互い助け合う」という精神をみんなで学んでいきたいと思っております。

## 令和2年度「地域づくり推進交付金」事業報告

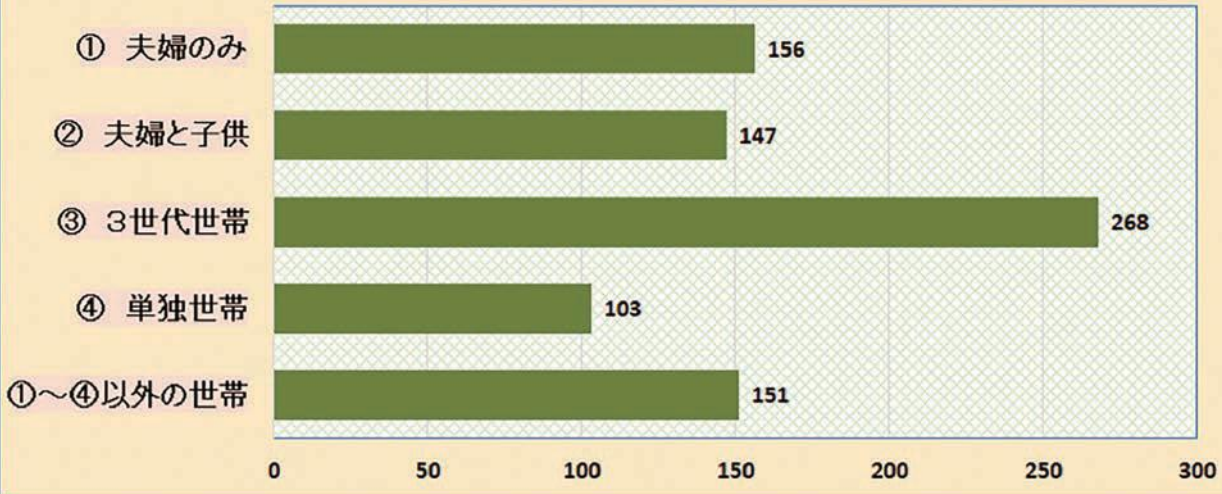
地域課題の解決や地域の活性化のために利用できる「地域づくり推進交付金」は今年で3年目の取組みでした。蚕桑地区には昨年同様1,790千円が交付されました。今年は、専門部会での交付金を利用する事業が出来なかったため、以下の事業を行いました。

《事業名》	《完了時期》	《金額》
① 蚕桑の将来像看板	令和2年 9月	55,000円
② 「慕古の路」まき絵&額	令和2年 11月	234,000円
③ 上の台公園百体庚申塔再安置事業	令和2年 11月	974,000円
④ 映像で残す蚕桑の今昔	令和3年 2月	130,000円
⑤ 上の台公園百体庚申塔看板	令和3年 3月	190,410円
⑥ コミセン廊下掲示板製作取付	令和3年 3月	206,590円
	合計	1,790,000円

次年度は、地域の要望をお聞きしながらより充実した交付金の利用を考えております。各地区におきまして交付金を使用して実施したい事業がありましたら、桜の里づくり推進委員会役員（区長）を経由の上、申請して頂きます様宜しくお願いいたします。

世帯の家族類型

総世帯数: 825世帯



今月も平成27年国勢調査（現状での最新）のデータから、蚕桑地区の家族類型を調査しました。核家族である「夫婦のみの世帯」や「夫婦と子供の親子だけで構成される家族」、世帯員が一人だけの「単独世帯」、それ以外の世帯に層別して集計しました。3世代世帯が32%が一番多いですが、夫婦のみ世帯の19%と夫婦と子供の世帯の18%を加えた「核家族の世帯」が37%となり3世代世帯を上回っています。また単独世帯は12%となっています。身近な自分の地区の家族類型も、大きく変化しているように感じられます。

糸かけ曼陀羅教室を開催

2月12日、清野民子氏を講師に糸かけ曼陀羅教室を開催しました。糸のかけ方を教わりコツをつかみ、それぞれの感性で一気に作品を完成させました。楽しかったという感想もたくさん寄せられました。一度体験すると、はまる人が多いようです。



写経教室を開催

2月19日、小野卓也住職を講師に写経教室を開催。34名と大勢の方にご参加いただきました。始めに般若心経についてお話を伺った後、呼吸を整えてから写経に向かいました。約2時間の心静かな時間を過ごしました。



山柳

蚕桑交柳社作品

課題 「心」

肝心な事なら何時も人任せ  
意外事に余裕ありません  
人妬む哀れ貧しくなる心

課題 「季節」

旧暦で正月昭和懐かしい  
先々に備えそつ無い母の四季  
窓越しに薄陽温くまる春霞

ユーモア句

心など今日と昨日で変わるもの  
季節感何処へ真冬のサクランボ

一八 杯重 笑柳 案柳 凡古 柳

あとがき

今年の冬は例年になく大雪に見舞われましたが、雪解けが進み、すっかり春めいてきました。今年度は、計画した行事もコロナ禍の中で状況を見ながら実施可否を判断したり、書面での承認依頼をしたりする等、過去のコミセン業務の進め方が全く通用せず慌ただしく過ぎてしまいました。来年度は、ワクチン接種が進んで、いつものように安心してコミセンを利用して頂ける日常に戻ることを切に願っています。  
(滝田)